

1: 【The Black Note】第18話 闇の精霊・シルト

2:

3: ■オープニング

4:

5: シルトモノローグ「生まれた場所は真っ暗闇の地下室だった。そこにはスレンダーな男が住んで
6: いて、よくワタシのことを構ってくれていた。口は悪いけれど、優しくて、色んなことを
7: 語りかけてくれて……。街のこと、自分のこと、仲間たちのこと、天使のこと。——そんな
8: な他愛もない記憶の中に一際、鮮烈に残っているイメージがあった。黒い髪、聡明そうな
9: 黒い瞳。じっと、ワタシを見詰めて、名前をくれたヒト。忘れない。覚えてる。早く、こ
10: こから連れ出して……」

11:

12: ■タイトルコール

13: デュレ「The Black Note 第18話 闇の精霊・シルト」

14:

15: ■本編

16: □きっと、恐らく、サムの家があった場所で。

17:

18: セレス「……がれきの山になってるんだけど……、ここがああサムの家……？」

19: デュレ「そう……みたいですわね……」

20: セレス「で、デュレ。どうやって、中に入るの？」

21: デュレ「それを今、考えているんですっ！」

22: セレス「お～怖！ でも、こんな状態じゃ、フォワードスベルで突っ込むしかないんじゃない？」

23: デュレ「あら？ セレスもたまにはいいことを言いますね」

24: セレス「そうでしょ！ って、あれ？ キミってそんなに素直だっけ？」

25: デュレ「うるさいですね。——我が名はデュム・レ・ドゥーア。闇の力を操るものなり。闇は邪

26: にあらず。追憶の片鱗に住まう孤独の想い。善良なる闇の神、シルトよ。呼び声に応えよ。

27: 空間を歪め、飛翔する力を我に与え賜え。……シメオン、サムの地下室に通ずる道を開け。

28: ……フォワードスベルっ」

29: セレス「だ、大丈夫？」

30: デュレ「言い出しっぺが何を言ってるんですか。行きますよ？ キャリアアウトっ！」

31:

32: SE：フォワードスベル実行。ドタン、ドタン。

33:

34: セレス「だあかあらあ！ 雑なのよ、雑。いい加減に……。うあ、真っ暗！」

35: デュレ「しっ！ シルト！ シルト、どこにいるの？」

36: セレス「く……。暗くて狭いところは大大嫌いなよ」

37: デュレ「うあっ！ 暑苦しいからくっつかないでください」

38: セレス「だってえ……」

39: デュレ「ライトニングスベル！」

40:

41: SE：きらり。

42:

43: セレス「あ……。闇の精霊の精霊核。この前、見た時はホンの赤ちゃんだったのに……ね？」

44: デュレ「精霊核が成長していても、精霊がいなくてダメなんです。精霊核だけがあっても、それ

45: だけではただの記憶の塊……。意志を持たなければ意味がない……」

46: セレス「——デュレ……」

47:

48: SE：足音。

49:

50: デュレ「……女の子……？ シルト……ですか？」

51: シルト「待ってた、ずっと待ってたよ」

52: セレス「感動の再会ってやつですか？」

53: シルト「精霊核にデュレの姿が映ってからずっと、待ってたよ。いつか、きっと迎えに来てくれ

54: ると信じていた。だって、キミはワタシに名前をくれた大事な人だから……」

55: セレス「べったりとくっつくのは後にしなさいよ？」

56: シルト「焼き餅を焼いてるでしょ？ 恥ずかしい」

57: セレス「にやにいっ！」

58: デュレ「セレスは黙ってなさい」

59:

60: SE：ゴチン。

61:

62: セレス「うぐぐ……。——だから、それはやめてって……これ以上、おバカになったら困るから」

63: デュレ「それ以上、おバカになるはずがありません。——シルト、力を貸してください。わたし
64: と契約してください」

65: シルト「ワタシがデュレに力を……貸すの……？ 契約って何？」

66: デュレ「……契約のアミュレットです……」

67: シルト「キレイ……」

68: デュレ「銀色の六芒星の真ん中の六角形に精霊核の欠けらを埋め込むの。そうしたら、シルトと

69: わたしは魔力的につながりを持てるようになります。それが契約することです」

70: シルト「欠けら……って、どう作るの？」

71: セレス「削ればいいんじゃない？ この辺とか？」

72: シルト「き、気安く触らないでよ。キミに触れられたらけがれちゃうじゃない」

73: セレス「けがれるって、あの～。それはちょっと言い過ぎ何じゃない？」

74: デュレ「シルト……」

75:

76: SE：アミュレットを握る。

77:

78: デュレ「アミュレットの六芒星のある方を精霊核にかざして、ゆっくりと近づけて……」

79: シルト「あ……。ね、デュレ。これ、ワタシ、どうなっちゃうのぉ？」

80: デュレ「大丈夫です。何もどうなったりはしませんよ」

81:

82: SE：雫が出来て、落ちるような音。

83: SE：鎖がチャリ。

84:

85: デュレ「これはあなたのものです。そして、シルトは自由に……」

86: シルト「ワタシの……？ ワタシはここから自由になれるの？ デュレと一緒にどこへでも好き
87: なところへ行ける？ ホント？」

88: デュレ「本当です。でも、その前にすることがあるんです……。わたしと一緒に来てください」

89: シルト「うん」

90: デュレ「では、みんなのところに戻りますよ、セレス」

91: セレス「はあ～い……」

92:

10.05.17
TBN18.rtf

93:
94: □迷夢とリボンとウィズ。
95:
96: 迷夢「で、キミたちは一体全体何をどうしようと考えて作戦を立てたワケ？」
97: シリア「……恥ずかしながら、何も……」
98: 迷夢「はあ？ この期に及んで、何も考えてない？ そりゃさ、マリスには策を弄（ろう）す
99: だけ無駄だろうけど、行き当たりばったり無策ってのも……」
100: サム「そんなにばやくこともねえんじゃないか？ あれを見るよ……」
101:
102: SE：足音、幾つか。
103:
104: 迷夢「闇の精霊か……。上手くいったみたいね……。けど、精霊として生を受けてからは十年強
105: ってくらいかな。精霊核年齢は……せいぜい二百五十くらい。理想を言えばジーゼくらい
106: ……千五百年以上は記憶と魔力を蓄積してくれたらねえ……」
107: シリア「しかし、相性を考えると闇の属性同士が一番いいからな、やむを得ないだろ？」
108: 迷夢「ま、ね。ただ魔力が大きすぎじゃダメだし、精霊と同調できることが大事なよね」
109: デュレ「マリスは？」
110: シリア「まだ、来ていない。諦めてくれてるんだったら、嬉しいんだけどね」
111: 迷夢「あらあ、リボンちゃん、マリスに限ってそんなことある訳ないじゃん。執念深いよ、あ
112: の女。あたしたちが引導を渡してあげないといつまでも逆恨みして、追撃をやめないよ」
113: サム「執念深いのはためえもたいして変わらねえだろ」
114: 迷夢「まあ、ねえ。で、エルフの子猫ちゃん、その一……、じゃ失礼だからデュレ。闇の精霊と
115: 契約が出来たなら、もちろん、始めるんでしょ？ 封印の破壊を」
116: デュレ「ええ、もちろんです……。実行しましょう」
117: サム「それより先に……そっちのシルバープロンド、レッドアイのお嬢ちゃんの紹介はしてくれ
118: ねえのか？」
119: シルト「ワタシは——あなたのことを知っている……。あなたはあの家に住んでいた……おじさ
120: ん？」
121: サム「おじさん……？ おじさん？」
122: シルト「お、お兄さん？」
123: サム「そう、俺は永遠のお兄さん」
124: シリア「精霊の子供をいじめてどうするんだよ」
125: サム「いじめてねえよ。な？ え〜と？」
126: デュレ「シルトです」
127: サム「な、シルト」
128: シルト「……」
129: シリア「嫌われたみたいだな、サム」
130: サム「ガキなんか嫌いだ」
131: 久須那「ふふ……。まあ、いいさ。デュレ……」
132: デュレ「はい。……シルト……。準備はいいですね？ わたしに魔力を貸してください」
133: セレス「あたしはあんまり良くないんだけど」
134: デュレ「セレスにはきいていません。そもそも、あなたはわたしに従ってればいいんです」
135: セレス「そんな、ご無体なあ」
136: サム「ためえもしい加減に覚悟を決める。今更、嘆いたところで始まらねえし、今、直面してい
137: ることを一つずつ、順序立てて片付けていくのが筋ってもんだろ？」
138: セレス「そうなんだけどさあ」

10.05.17
TBN18.rtf

139: サム「それで、俺たちは何をしたらいいんだ？」
140: シリア「……オレたちにできることはない。それどころか、迂闊に手を出すと魔法自体を崩壊さ
141: せてしまうかもしれない」
142: サム「なるほど。意外にデリケートなんだな。その何とかっつ魔法は」
143: シリア「デリケートというのとは違う。傍に寄ると餌が増えるだけなんだよ」
144: サム「餌？」
145: シリア「そう、餌だ。俺たちが闇を覗く時、闇も俺たちを覗いている。ただ覗かれ合うのが普通
146: の闇魔法としたなら、向こうからちょっかいを出してくるのが邪なる闇魔法」
147: サム「そうか。つまねえが邪魔者はすっこんでろってことだ。ウィズ、ためえも変に巻き込ま
148: れたくねえなら、離れてた方がいいな」
149: ウィズ「ああ、わかった」
150: 久須那「それじゃあ、始めてくれ」
151: デュレ「はい。——シルト、頼みますよ……」
152: シリア「うん」
153: デュレ「精霊の魔力をわたしの手の中に……」
154:
155: SE：何かがぼわっと光るような雰囲気。
156:
157: シルト「きっと、成功するよ」
158: デュレ「もちろんです。（深呼吸）闇の魔術師・デュレの名に於いて漆黒の闇の深淵のさらなる
159: 深みにアルものよ。我が呼び声に応え、闇の奥底よりうつつよへの道筋を開け。よって、
160: 我が束の間の盟約を結び、我が言霊をうつつへ導く」
161: 精霊「ああ……。お前と盟約を結んでやるう——。——そやつが生贄か……。よかろう……」
162:
163: SE：不穏な空気。
164:
165: デュレ「漆黒の闇の深淵のさらなる深みにアルものよ。封印の絵に宿りし光を滅し、闇に沈む孤
166: 独な光点へ。画布に封じられし魂をうつつよへと解放するものなり！」
167: 精霊「うつつよへと解放する……代償を支払え……」
168: デュレ「きゃあ」
169: ウィズ「う。な、なんだ、あの真っ黒い物体は？」
170: シリア「さあなあ。何というか、呑まれたんじゃないかな、闇に……」
171: セレス「え、でも。封印破壊は終わったんでしょ？」
172: シリア「いや、まだ、終わっていないな。むしろ、これからだろう？」
173: セレス「マジ……ですか？ あの、その、さあ。あたし、どしたらいいワケ？ キ、キミたちへ、
174: 平気そうな顔をしてるけど、これって、とってもまずい状態なんだよねえ……？」
175: 迷夢「ま、そうだよ。でも、キミ以外の誰かが焦ったところで全然意味がないのよね。だっ
176: てさ、デュレたちを救えるのはキミだけなんだから」
177: セレス「あ。あたしだけ？ 何で？」
178: 迷夢「この面々でキミがデュレと最も親しいから。「闇」とは全属性のうちが一番厄介な属性なの
179: よ。魔法の上手下手、魔力の大きさだけで必ずしも何とか出来るものじゃない。最後の切
180: り札になるのは……。そりゃ、言うだけ野暮ってもんよね。ま、今すぐ、取り殺されるな
181: んてことはないから、どうにかしてみてちょうだい。エルフの子猫ちゃん、その二」
182: セレス「でも、どしたらいいか、よくわからないんだけど、あたし」
183: 迷夢「そう？ じゃあ、とりあえず、あたしの魔力であの中に入っ込んであげるわ」
184: セレス「え〜？」

10.05.17
TBN18.rtf

185: 迷夢 「後は自分でどうにかしてねっ！ えいっ！」
186: セレス 「ぎゃあっ」
187:
188: □目の中？
189: デュレ 「……ここは……“目”の中なのかしら……？」
190: シルト 「判らない……。判らないけど、怖いのだ」
191:
192: SE：足音。
193:
194: セレス 「やっほ～、デュレちゃん、大丈夫だったあ？」
195: デュレ 「……。セレス……？ どうやってここに？」
196: セレス 「ど～やってってあたりは迷夢に訊いてよ。あたしはここに蹴り込まれただけなんだから。
197: それにさ、落ち込んでたら、励ましてやろうと思って」
198: デュレ 「セレスこそ、暗くて狭いところは大嫌いだったんじゃない？ やせ我慢して」
199: セレス 「だ、な、だって、あたしがキミを助けに行かなきゃダメだって、迷夢が――、だから、
200: 折角来てやったのに、なあんだ、その言いぐさは！」
201: デュレ 「では、嫌々来たんですか？ と遊んでる場合ではないですね。今は落ち着いてるようで
202: すが、この先どうなるかなんて、予測不能ですし……。どうやって、ドロ―イングが破壊
203: されるのかすらも全く判りません……」
204:
205: SE：おどろおどろ
206:
207: 精霊 『生贄の命と引き替えに光を滅そう……。生贄は……お前か……』
208: セレス 「は？ あたし？ あたしが何だって？」
209: デュレ 「こ……。この娘をくれてやりますっ」
210: セレス 「ちょ、な、言うに事欠いて何てことを言い出すんよ、あたしを売る気？」
211: デュレ 「自分のすべきことを考えなさい。何のためにセレスとわたしが久須那さんに選ばれたの
212: か、考えてみてください」
213: セレス 「え、え～と、――キミが魔法を行使して、あたしとその間のキミを守る……だっけ？」
214: デュレ 「そうです。封印が破壊されるまで考えながら上手く立ち回ってください」
215: セレス 「考えるの嫌い。って言うかさ、何で今更、こんな有様？ この魔法、変っ！」
216: デュレ 「変なかどうかはちょっと……。けれど、恐らくこれは予定調和のうちです」
217: セレス 「じゃあ、あの変なのをこじ開けて、あたしがここに来るのも予定のうち……？」
218: デュレ 「必ずしもそうだとは思いませんが、あれはあなたが好きなようですから。さっきからず
219: っとセレスをみてます」
220: セレス 「え～、何か、やだな」
221: 精霊 『盟約を遵守……』
222:
223: SE：何か、異変が起きる。
224:
225: 精霊 『盟約の破棄は許されない。遵守せよ……。ここから帰せない』
226: セレス 「つまり、そう言うことか。あたしがここに居るワケは」
227:
228: SE：セレスの短剣がちゃき。
229:
230: 精霊 『お前は我が盟約を破棄するのか――』

10.05.17
TBN18.rtf

231: デュレ 「セレス！ そいつを早くっ！ 抑えてっ」
232: セレス 「りよ～かい」
233:
234: SE：セレス走る。
235:
236: デュレ 「あ、でも。久須那さんの封印を破壊する前にあれが消えてしまったら……」
237: セレス 「え～？ じゃあ、まだ、あいつをやっつけたらダメなのぉ？ どうするのよ？」
238: デュレ 「こ、ここまで来たら、すぐに封印の破壊なんて済むと思ってたんです」
239: セレス 「……想定外か……。この変なのに喰われる前に終わると思う？」
240: デュレ 「終わってくれないと困ります。――シルトは……？」
241: シルト 「ワ、ワタシは何も出来ない。ワタシの魔力はあれを呼び出すまで、あとは拒絶されて
242: るの。この闇とワタシの闇は質が違うみたい」
243: セレス 「は～。“親しいものがない”って、こりゃそうだろうね。あたしに犠牲になれってことか？
244: ふざけるなっ！ あたしたちは生きて帰る。封印破壊もきちんとなす。――あたしに寄
245: るなっ！ この」
246: デュレ 「……久須那の絵の……封印が壊れる……。今ですっ、やってっ！」
247: セレス 「よしゃあああっ！」
248:
249: SE：セレス、目玉に短剣を突き立てる。
250:
251: 精霊 『ぎゃああああああ――！』
252:
253: サム 「――よっ、どうやら無事、帰還を果たしたようだな」
254: セレス 「サム……？ これは……どういうこと……？」
255: 迷夢 「大成功ってこと、あれを見てごらん？」
256: セレス 「久須那が……二人になった……？」
257: 久須那S 「わたしはシルエツスキルだよ。これでわたしの役割は終わりだな。――還るよ、久
258: 須那の中に」
259: 久須那 「――長い間、ありがとう……」
260: 久須那S 「わたしはお前だ。気にすることはない――」
261:
262: SE：久須那のシルエツスキル、久須那に吸い込まれて消える。
263:
264: 久須那 「――待たせたな、サム」
265: サム 「……待ってたぜ。久須那」（サムと久須那ぎゅって。
266: 久須那 「サム……。お前がおじいさんになっても……。わたしはもう、放さない――」
267:
268: SE：足音。セレス、絵の前に立って。
269:
270: セレス 「……久須那と、ゼフィと、マリスと、レイヴンと、シリアと、迷夢の絵……。これが迷
271: 夢が取り戻したかったものなんだね」
272: 迷夢 「誰が取り戻したかったものだって？」
273:
274: SE：迷夢、セレスの耳を引っ張る。
275:
276: セレス 「いてて、やめてよ、迷夢。あたしの耳はデリケートなんだから」

10.05.17
TBN18.rtf

277: 迷夢 「ああん？ いいコト？ あたしに取り戻したいものなんかないの。欲しいものはいつだっ
278: 　　で“この”手のひらの上よ。そんな人間きの悪いこと、一言だって言って欲しくないわあ！」
279: セレス 「ちょ、ちょ～！」
280: 久須那 「ところで、デュレ、……禁術として封印された天使の帰還魔法が存在することを知って
281: いるか？ マリスに打ち勝つためにレルシアさまが残した一つの可能性……」
282: デュレ 「え？ あ？ あの、知りませんが……、マリスを強制的に天使の住む世界に追い返す
283: と言うことですか？ でも、それでは根本的な解決にはならないような気が……？」
284: 迷夢 「そおかしら。こっちから向こうには行けるけど、向こうからこっちには来れないのよ。そ
285: もそも“召喚”なんて概念は天使の世界にはない訳だし」
286: サム 「つまり、帰っちゃったら、二度と戻ってこれねえってことだな」
287: 久須那 「そう言うことだ。倒してしまおうとするより、幾分わたしたちにも勝機があると思う」
288: シリア 「……マリスは鋭いぞ。帰還魔法はかなり大がかりな魔法だ。準備にも時間が必要だし、
289: 発動するまでにも多くの時間が必要だ。……あのマリスが最後の最後まで魔法に気がつか
290: ないとは考えられない」
291: ウィズ 「だったら、勤づかれなようにやればいいだろ？」
292: サム 「マリス相手には何をやるにしても易くはねえんだよ。ま、文献とかでよ、マリスってのを、
293: その怖さってのを知ってるつもりになってるんだらうが、実物はそれ以上だぜ。フツ～な
294: ら見た瞬間、けつまくって逃げ出したくなるね」
295: ウィズ 「しかし、七対一で押しまくれば……」
296: サム 「押しまくればな……。エルフや人間がまともにやり合ったら、勝てねえよ、絶対に」
297: ウィズ 「そうか……？」
298: シリア 「しかし、マリスは宣戦布告までしておいて、現れないか……」
299: 迷夢 「あのせつちなマリスちゃんか？ 怖じ気づいたか……じらし戦法にでたか。ま、マリス
300: の性格からしたら、夜襲、奇襲は仕掛けてこないはずだから、今夜はゆっくりお休みよ」
301: セレス 「それ、信じて大丈夫なんだろうね？」
302: 迷夢 「あら、やだ、セレス。あたしを信用できないっての？」
303: セレス 「だって、寝てる間に殺されたら、末代までの恥じゃない」
304: 迷夢 「キミもマリスと接触しておいて学ばないやつだねえ。ま、そんなんがキミだから、とやか
305: く言うだけ無駄だってもんよねええ。でさ、ウィズ、木の木っ端でも集めて、火、つけて
306: よ。炊飯の道具を持ってきてるんでしょ？ もちろん。夕食にしましょ」
307: ウィズ 「はいはい」
308:
309: SE：足音。ちょっと間。
310: SE：しばらくして、たき火の音。
311:
312: ウィズ 「どこまで行っても瓦礫ばかりで、それを探すのも、骨が折れて嫌になったよ……」
313: 迷夢 「そんなことを言っていないで、飯よ、飯。ホラホラ、火をつけて……。と言うか、あたしが
314: つければいいか。魔法の方が手っ取り早いし。ファイア」
315: セレス 「炊飯なんてしなくても、お弁当があるのよ。ジーゼが用意してくれたの」
316: 迷夢 「ふ～ん。意外と気が利くのね、ジーゼって。で、中身は？ お～、サンドイッチと紅茶で
317: すか。夜なのには？」
318: セレス 「軽食なんだから、グタグタ言わない」
319: サム 「しかしよ、何でこう、緊張感が全くねえんだ？ 世界がかかっているってこともねえが、
320: 自分たちの命がかかっている。しかも、相手は天使ときたもんだ」
321: シリア 「楽観的になれる要素なんて一つもないが、悲観的にならないのがあいつらのいいところ
322: だ」

10.05.17
TBN18.rtf

323: サム 「ステータスって訳か……。ある意味、羨ましいな」
324: シリア 「無謀なだけかもしれないぞ。だが、それがあいつらの強さだ」
325: サム 「なるほどね。いいような、悪いようなだな……」
326: セレス 「……やっぱり、いいねえ。みんなで集まって焚き火を囲むのって。で！ こういうシチ
327: ューションならあれでしょ？ あれ？ お・サ・ケ、持ってないの？」
328: デュレ 「お酒なんて誰も持っててははずないでしょ。暇さえあれば、セレスはお酒ばかり」
329: セレス 「もう、一週間以上、一滴も口にしていないのよお、だからあー」
330: デュレ 「――禁酒しなさい」
331: セレス 「禁酒う？ そんなこと出来るワケないじゃん。三度の飯より酒よ、酒」
332: デュレ 「無い物ねだりは時間の無駄です」
333: セレス 「うるさいよ、キミは。――う～ん、じゃあ、しゃあない、リボンちゃん、ちょっと傍に
334: 来て……」
335:
336: SE：シリアくんの足音。
337:
338: シリア 「傍にいただけだぞ。抱き枕にしたら噛みつくからな」
339: セレス 「しないよ、多分……」
340: シリア 「多分？」
341: セレス 「いいから、気にしないでそこに寝そべって。うん？」
342:
343: SE：ごそごそ。
344:
345: セレス 「あ～、これよこれ。このふわふわ感がたまらなく気持ちよくて……」
346: シリア 「どうせ、こうなるんだよ。判ってたんだ。ところで、――迷夢、不死鳥の卵はどこにあ
347: ったのか覚えているか？」
348: 迷夢 「さっきからずっと探してるんだけど……いまいちよく判らないのよねえ」
349: シリア 「マリスの手にあると言うことはないのか？」
350: 迷夢 「あ、それはないない。マリスが持ってたらすぐに判るわよ。シメオンにあるには間違いな
351: いと思うんだけど、色んなのに干渉されて一を特定できないのよ」
352: シリア 「そうか。何とか、マリスより先に見つけたいな」
353: 迷夢 「そりゃあ、もちろん。そしたら、見つけ出したら、やっぱり、あたしのロミィちゃんって
354: 名付けてあげるの♪」
355: シリア 「あ～そう。……もしかして、それだけのために探そうってのか？ お前」
356: 迷夢 「あん？ そんな訳ないしょ。あたしはセレスじゃないんだから」
357: シリア 「セレスが聞いたら怒るぞ」
358: 迷夢 「あははっ！ 気にしない、気にしない。寝てるし。聞こえないでしょ？ 聞こえててちょ
359: っかいを出してきても返り討ちにすだけよ」
360: シリア 「黙って、返り討ちになる様なセレスじゃないだろ？」
361: 迷夢 「そう……だね……。って言うかさ、話がずれた」
362: シリア 「そうか？ 別にいつも通りだと思うぞ？」
363: 迷夢 「ま、ね。――でも、不死鳥、ロミィはデュレの前に必ず現れるのよ。ロミィが見せてくれ
364: た未来の中にそれはあったから……。それに、まずい予感がビリビリとするの。――あいつ、
365: っ、今日か、明日か、明後日か、近いうちに孵化するわ。これだけの魔力が集中するんだ
366: から、餌場にはうってつけ。と言うのは関係ないけど、生まれるタイミングによってはロ
367: ミィを必ず味方につけないと、あたしたち、何も出来なくなるわ」
368: シリア 「だから、孵化する前に見つけたいのか？」

369: 迷夢 「まあ、それも一つ」
370: シリア 「ほかにも何かあるのか？」
371: 迷夢 「クロニアスはデュレっていったけど、セレスとロミィを仲良くさせようと思ってさあ。
372: 不死鳥は炎の属性があるから、情熱的なセレスと意外に相性がいいんじゃないかと思って」
373: シリア 「はぁ～ん。暫く見ない間にお前も随分大人になったな。以前のお前なら絶対にそんなこ
374: とは言わなかったぞ楽しければそれでいい！ ハチャメチャなやつだったのにな？」
375: 迷夢 「あは、それは言わない約束よ」
376: シリア 「そんな約束はした覚えはないぞ♪」
377: 迷夢 「あははあ。このままじゃ、終わらないから、きっと」
378: シリア 「——終わらないか……」
379: 迷夢 「ええ……。さて、寝よか？ 明日は怒濤の一日になるわよ。……お休み、リボンちゃん」
380: シリア 「——全く、どいつもこいつもオレを枕にしやがって、どういう育ちなんだ、こいつら？」
381:
382: 久須那 「——サム、二度とわたしを離さないで。……あんな思いをするのはもう嫌なんだ」
383: サム 「ああ……。今度はあの時とは違う。一人じゃねえしな……。みんながいる。だから、き
384: と、大丈夫。誰も死んだりはしねえよ」
385:
386:
387: □夜が明けて……。
388: ・小鳥のさえずりか何か。
389:
390: シリア 「随分と朝が早いな……。デュレ」
391: デュレ 「リボンちゃん……。迷夢とセレスの下敷きになってたんじゃなかったんですか？」
392: シリア 「……なってたよ。二人してオレを何だと思ってるんだ？ ま、仕方がないから、地面に
393: 転がしてきた」
394: デュレ 「地面に転がしてきた？」
395: シリア 「ああ、起こすのも面倒くさかったから。でも、それでもグッスリと眠ってる」
396: デュレ 「——リボンちゃんは帰還魔法について何か知っていることはありませんか？」
397: シリア 「知っているも知らないも、そもそも見たことがないんだよ」
398: デュレ 「リボンちゃんが知らないんですか？ じゃあ、久須那さんのこの走り書きだけが頼り」
399:
400: SE：紙をかかささ
401:
402: デュレ 「魔法陣を描く代わりとして魔力の高い六人を六芒星の各頂点に配置。星を形成する正三
403: 角形の一辺の長さは正確に二百メートル。正確に？ そんな、測量でもない限り……」
404: シリア 「——正式なやり方ではないな」
405: デュレ 「何ですって？」
406: シリア 「正式なやり方ではないと言ったんだ。帰還魔法自体は知らないが、魔法陣を描くのは簡
407: 易魔法を行使する時以外は基本中の基本だろ」
408: デュレ 「そうですけど——。それが何か……？」
409: シリア 「魔法陣の代わりに人を配置するなんて事はないということさ。魔法陣が不安定になる可
410: 能性があるからな。特に召喚関係の魔法は他の世界への出入口を開く訳だから、少なくとも
411: も繋がっている間は安定している必要があるんだ」
412: デュレ 「では、どうして、こんな不安定な方法を？」
413: 久須那 「マリスに気取られないようにするためだよ。マリスが歩いてくるなんて事はあり得ない
414: し、空から飛んできたなら魔法陣の地上絵を見つけれちゃう」

415: デュレ 「あ……。魔法陣を書く時は無防備になりやすいし、魔法陣の古代文字からすぐに何の魔
416: 法を使おうとしてるか判ってしまう。邪魔されたら……」
417: シリア 「そう言うことだ。それに最後の一人が定位置につくまで、この魔法陣は機能しない。そ
418: の辺はフツの魔法陣と似てるかもしれないが、意味合いは大きく異なる」
419: デュレ 「——魔法の発動ギリギリまで、魔法陣の存在を隠しておく……？」
420: シリア 「その通りだ。直に魔法陣を書くよりは幾らか気付かれにくい」
421: デュレ 「魔法陣は見付けられないかもしれないですが、人を所定の位置に配してる間に魔法を行
422: 使しようとしていることを悟られる可能性も……」
423: シリア 「否定はしないよ。だから、迷夢と久須那にマリスを引き付けてもらうしかないと思う。
424: 久須那と迷夢を信じるほかない。もしくは、気取られる前に迅速に行動する。意図が判っ
425: た時には手遅れにしてしまうかのが最も理想的だ」
426:
427: SE：二つの足音。
428:
429: サム 「あの二人で勝てなけりゃ、俺たちは全滅だ。ま、だから、恐らく、追い返すのが最も被害
430: が小さくて済む。そして、それができるメンツがそろう時代を……。楽天主と妙に几帳面
431: なエルフが現れるのを待ったんだろうな。つまりは……てめえらだよ」
432: デュレ 「何か、微妙に馬鹿にされてる様な気がするんですけど……」
433: 迷夢 「ねえ、キミたち、朝っぱらから何の激論を戦わせてるの？」
434: シリア 「レルシアが遺した最後の可能性の検討」
435: 迷夢 「つまり、帰還魔法を実行するのね？ 正規のでも難しいんだから、それが変則的になっ
436: たらもっと難しいのよ。それ、未熟なデュレをメインに据えようなんて無謀も無謀、無茶の
437: 領域なんて遙かに超えちゃってるわよ？ それでもやる？」
438: シリア 「——そこまで言うか、お前……。デュレが凹んだらどうするんだ？」
439: 迷夢 「あら、そう言われたら凹むより俄然、燃え上がるたちなんでないの、デュレって」
440: デュレ 「いえ、でも、その封印破壊の時と一緒に、実行してみるまで判りません」
441: 迷夢 「お～お。随分と心強いお言葉だ事」
442: デュレ 「……わたしの専門は闇魔法ですよ。光なんてまるっきり反対ですし。——属性のことを
443: 考えないにしても、わたしには帰還魔法実行の経験がありません。むしろ、同属性の迷夢
444: さんや久須那さんが実行した方が上手くいくと思うんですが……？」
445: 迷夢 「そうね。そう考えたくなる気持ちもわかるけど。キミにマリスの相手が出来る？ 下準備
446: から、詠唱まで、十分から数十分。キミが帰還魔法を実行するより、かなり時間の短縮は
447: 出来るだろうけど、その十分を戦い抜き、マリスを魔法陣のところまで誘き寄せられる？
448: ——呪文の詠唱している間、あたしはそれ以上のことは出来ないよ」
449: デュレ 「み、みんながいれば……何とか……」
450: 迷夢 「あ～無理無理。リボンちゃんに千五百年前のことを聞いたことがあるでしょ？ ……ゼフ
451: イヤサスケ、レルシア、シェイラル。第一級の魔法使いがいてもあの様（ざま）だったの
452: よ。魔力があってもまだスキルの足りないキミたちにはどだい無理な話」
453: デュレ 「——何か、変なところで妙な悔しさがあるんですが……。とにかく、わたしが呪文の詠
454: 唱をして、久須那さんたちがマリスの相手をした方がまだ何とかなる可能性があるという
455: ことですか……」
456: 迷夢 「その通りよ」
457: サム 「けどよ、マリスが現れる前にスタンバイしたらすむだけの話じゃねえのか？」
458: 迷夢 「出来たらいいけど、気付かれるわよ。帰還魔法は大きな魔力を必要とするから、周囲にも
459: その余波が現れてしまう。ついでに途中で止められたら始末の悪いことになる。廃墟が消
460: し飛んだところで構わないけど、ここら一体は更地になるわよ。綺麗さっぱり何もなし！」

10.05.17
TBN18.rtf

461: サム「俺たちごと、消し飛ぶってワケか」
462: 迷夢「うんにゃ。あたし、久須那やマリスは余裕でブロックよ。むしろ、問題なのはキミたち。
463: ま、魔法崩壊の憂き目にあったら、あたしが何とかしてあげるつもりだけど、無事ですむ
464: とは思わない方が賢明でしょうねえ」
465: ウィズ「そのリスクは何をどうやっても避けられない。やるしかないってことだ」
466: 迷夢「その通り！」
467:
468: SE：足音。
469:
470: セレス「——ねえ、朝っぱらから騒々しくてオチオチ寝てられないじゃない。……？ 何？ み
471: んなして辛くさい顔してどうしたのよ」
472: デュレ「こんな状況なのによく呑気に眠っていられますね」
473: セレス「あ～？ 寝る時は寝ておかないと、身体が持たないし……。……？ みんな、いるけど、
474: 久須那がいないね」
475: サム「久須那がいない？ さっきまで、一緒にいたぞ」
476:
477: SE：……。
478: SE：翼の音。
479:
480: 久須那「……来たか、マリス……」
481: マリス「どけえっ！」
482: 久須那「！ シールドアップ！ くぁっ！」
483:
484: SE：ズバババババ？
485:
486: デュレ「く、久須那さん！」
487: 久須那「——来ないと思っていたんだが……」
488: ウィズ「……あれがマリス……？ トリリアン—味……？」
489: 迷夢「どうだろうね。本人に直接聞いてみたら、そこにいるんだし」
490: マリス「変わり果てた姿をしているが、性格は全く変わってないようだね。……迷夢」
491: シリア「……いつ帰った」
492: マリス「よくもぬげぬげとそんなことが言えたものだ。貴様が知らないはずはない。……？ 何？
493: 本当に知らない？ まあ、何でもいい。どちらにしても、これでお終いだ」
494: 久須那「本当におしまいか……？」
495: マリス「——あまり進歩していないようだ。鍛錬を怠っていたのか？」
496: 久須那「日々の研鑽を怠ったことはない。お前はわたしと決着をつけるつもりなのだろう……？」
497: マリス「それだけ言えたら大したものだな。……呪詛が進行して苦しいはずだ」
498: 久須那「——そうでもない。お前を倒すまで死にはしない」
499: マリス「なかなか言ってくれるじゃないか。いいだろう、かかってこい」
500:
501: SE：駆け足。
502:
503: セレス「くっ」
504: マリス「貴様に何が出来る」
505: シリア「——世話を焼かせるなよ、セレス。身の程を知れ」
506: セレス「だって、こいつは母さんの仇なんだ。許すもんか、絶対に許すもんか！」

10.05.17
TBN18.rtf

507: シリア「お前、一人だけじゃ死ぬだけだ。そんなことをバッシュが望むと思うか」
508: マリス「お涙ちょうだい……。とんだ茶番だな。——さて、お遊びはここまでだ」
509:
510: SE：かつかつ。
511:
512: マリス「さあ、誰が相手だ。それとも、わたしから行くか？ ——天空に住まう光の意志よ。我
513: が左腕に宿り、全てを滅する破壊のパワーを体現せよ、光弾！」
514: 迷夢「シールドアップ！ 久須那。——手伝って」
515: 久須那「シールドアップ」
516: 迷夢「参っちゃうなあ、もう。いきなり全力ですってよおお？ 何かいい案ない？」
517: セレス「——ねえ、久須那。キミのイグニスの弓ってあたしにも使える？」
518: 久須那「わたしの？」
519: セレス「うん。前さ、迷夢が剣を貸してくれたから、もしかしらたと思って。剣は下手くそかも
520: しれないけど、弓だったら久須那ほどではないかもしれないけど、自信はある」
521: 久須那「矢は自分で用意できるか？」
522: セレス「……さあ？」
523: 久須那「さあって……。まあ、いい。使え！ 弦があるつもりで引きながら強く矢をイメージす
524: るんだ。そうしたら出来る」
525: セレス「——弦がない……。お……。えと、矢をイメージ……」
526:
527: SE：弓がしなる。
528:
529: セレス「もっと強く。もっと……。もっと」
530: マリス「くそっ！」
531:
532: SE：矢が飛んで、ブロック。
533:
534: マリス「——詰まらないことをするな」
535:
536: SE：シリア。駆ける
537:
538: セレス「うおっ？？ 誰だっ！ ヒトの頭を踏ん付けていくのはっ。——リボンちゃん……」
539: マリス「な、何をするっ！ け、ケモノは嫌いだっ！ 触れるな！」
540: シリア「オレをケモノ扱いするなど言ったはずだ」
541: マリス「ケモノをケモノと言って何が悪い」
542: シリア「オレはケモノじゃない。フェンリルだッ。精霊王のシリアと呼べ！」
543: マリス「断るっ！」
544: セレス「えいっ」
545:
546: SE：矢が飛んでく。で、打ち落とされる。
547:
548: マリス「くそお！」
549: セレス「ちっ！」
550: マリス「死にたくなければ、手を出すな。用があるのは天使どもとこの犬だけだ」
551: シリア「オレのことを犬と言うな」
552: マリス「ケモノが気に入らないなら、貴様は犬だ。貴様は精霊王……高貴なものとは違う。ただ

553: の犬ッころだ！ 親父の背中に隠れびーびー泣くだけの哀れな子犬め」
554: シリア「——どこまで侮辱したら気が済むんだ、お前は……。そんなくだらない自尊心を満たす
555: ためだけにここに居るのか？」
556: マリス「いいや、貴様らを討ち滅ぼすためにここに居る。まずは……貴様からだ、シリア。——
557: パーミネイトトランスファー！」
558: シリア「何っ？」
559: マリス「貴様には用がある。なあと、戻ってくるまでには雑魚どもは片付いてる。つもる話もある
560: ことだ。邪魔者を排除してゆっくり聞かせてもらおう……貴様の存在理由を」
561: シリア「マリスっ、お前、何を考えて……」
562:
563: SE：パーミネイトトランスファー発動！
564:
565: デュレ「リボンちゃんをどこにやったんですかっ？」
566: マリス「知らんな——聞き出したいのなら、わたしを倒して見せる。だが、貴様らが束になっ
567: てかかってきても、わたしは倒せない。——また、封ずると言う卑怯で姑息な手段に訴え
568: ようと言うのなら話は違うが、……三度も失態は演じないっ！」
569: 迷夢「そお？ キミはあたしの全力を知らない」
570: マリス「そんなことはない。この間、時計塔で貴様の全力を見せてもらった」
571: 迷夢「あれは百パーセントじゃない。善良なる闇の言霊を操ってたんだから、その分が残ってる」
572: マリス「……だとしても、関係ない。貴様と戯れている暇はない。全力を出し切られる前にやる
573: だけだ」
574: 迷夢「完璧なあたしに勝つ自信がないんでしょ？ 絶対に負けないんだってんなら、ちょっとく
575: らい付き合ってくれてもいいんじゃない？」
576: マリス「……ほざけ」
577: 迷夢「あらあ。あたしに勝つ自信がないんだ。やっぱり」
578: デュレ「久須那さんっ！ リ、リボンちゃんは……」
579: 久須那「いい、放っておけ。どこに飛ばされたのかも判らずに探すなど、時間の無駄だ。……そ
580: れに手を出すな。これはわたしとマリス……迷夢の問題だ」
581: 迷夢「あら、久須那。ちゃんとあたしも勘定に入れてくれたんだ♪」
582: デュレ「しかし、わたしにもコトを取める責任がありますっ」
583: 久須那「……頭数だけでは何も出来ない」
584: マリス「えらく謙虚だな、久須那。何を企んでいる？」
585: 久須那「色々、企んでいるさ。策一つだけしか用意できないようではお前には勝てない」
586: マリス「その策とやらを教えて欲しいものだな？」
587: 久須那「教えてしまったら、策にならないだろ？」
588: マリス「……ならば、その策諸共、貴様もこいつのサビにしてやろう」
589: 迷夢「キミこそ、あたしのサーベルのサビにしてあげるわ」
590:
591: SE：迷夢、虚空から剣を取り出す。
592:
593: 久須那「迷夢は少し待ってる」
594: 迷夢「——ちえ、しょうがないなあ。あたしの分もちゃんと残しておくのよ？」
595: マリス「サシの勝負で勝つつもりか？ 迷夢がいたら、少しは可能性があったかもしれない……」
596: 久須那「少なくとも、負けるつもりはない」
597: マリス「……やけに強気だ。いつもの貴様らしくない」
598: 久須那「——いつもとはいつのことだ？」

599: マリス「フン、そんなことはどうでもいい。いい加減、貴様らの相手をするのもうんざりなんだ。
600: ここで終わらせる、何もかも。過去の全てに終止符を打ち、わたしは自分だけの未来を築
601: く！」